

夕刊

福島歌舞界漫談 上

高木直吉

會津の山河草木が寒天にたのもの折で『君は大人ふるるる頃、城秋が死んだ歌を作るなあ!』と頭を

で世に残して逝かねばならず悔いするのだ。従つて氏も

ぬ牧秋の心は確に寂そのも所謂アララギ派歌人として

のであつたらう。何となれ福島の第一人者であるのだと

ば氏は非常に食乏であつた日本歌壇から姿を消し『彼

からである。思ひの彼が女よ處へ行く』と注目さ

れて、國の生活戦線を彷彿すれつゝあつた原阿佐緒を再

きれば心に沁みて生き

たかりけり

の境地より尙切實なもの

かがあつたであらう。私は

にして次の歌を静かに憶

切實に思ふたであらうからである。赤彦の、思ひの彼が女よ處へ行く』と注目さ

れるであらう所の多くの子を起せしめて、二人で『木槿

を郡山から發刊したのは昨

年の七月であり、思ふたに

然し會員の不道徳から經濟

を郡山から發刊したのは昨

年七月であり、思ふたに

然し會員の不道徳から經濟

を郡山から發刊したのは昨

車はいたくゆれつゝ自動車のなかまたもひきつけ来る子を妻よりとりて吾がいただきつれ

眞夜中の驛にゆくしく人集まるは日支事變派遣

軍通過見送るとなり

萬歳を唱ひ終りし我が

目にも涙ながれある

は知りをり

も驛につく支事殘益

を擴大と知る

戰死者の遺骨日に幾度

影がなげかける憂鬱を何としませう

今……

私の前をゆきつもござつ

するやがて跡方もなく消えてゆきませうとも

「玉露で……」

所詮は蜃氣樓の様に

心の迷ひなんか迷はせて

ます

近來の睡氣さま

生命線守護の勞

苦に對し断然欠

スブル赤井の林

席を許さぬ廿九日祭日

日の勇士歡迎會

野組合

而して第の大晦

あ、有様の所は、き、

きせるのやに抜く爲め、

と、と、隣の足輕の娘、そ

の娘に、一寸借用いたしき

たる物で、はい』

龍馬はきよとしなが

その』

車はいたくゆれつゝ自動車のなかまたもひきつけ来る子を妻よりとりて吾がいただきつれ

眞夜中の驛にゆくしく人集まるは日支事變派遣

軍通過見送るとなり

萬歳を唱ひ終りし我が

目にも涙ながれある

は知りをり

も驛につく支事殘益

を擴大と知る

戰死者の遺骨日に幾度

影がなげかける憂鬱を何としませう

今……

私の前をゆきつもござつ

するやがて跡方もなく消えてゆきませうとも

「玉露で……」

所詮は蜃氣樓の様に

心の迷ひなんか迷はせて

ます

近來の睡氣さま

生命線守護の勞

苦に對し断然欠

スブル赤井の林

席を許さぬ廿九日祭日

日の勇士歡迎會

野組合

而して第の大晦

あ、有様の所は、き、

きせるのやに抜く爲め、

と、と、隣の足輕の娘、そ

の娘に、一寸借用いたしき

たる物で、はい』

龍馬はきよとしなが

その』

車はいたくゆれつゝ自動車のなかまたもひきつけ来る子を妻よりとりて吾がいただきつれ

眞夜中の驛にゆくしく人集まるは日支事變派遣

軍通過見送るとなり

萬歳を唱ひ終りし我が

目にも涙ながれある

は知りをり

も驛につく支事殘益

を擴大と知る

戰死者の遺骨日に幾度

影がなげかける憂鬱を何としませう

今……

私の前をゆきつもござつ

するやがて跡方もなく消えてゆきませうとも

「玉露で……」

所詮は蜃氣樓の様に

心の迷ひなんか迷はせて

ます

近來の睡氣さま

生命線守護の勞

苦に對し断然欠

スブル赤井の林

席を許さぬ廿九日祭日

日の勇士歡迎會

野組合

而して第の大晦

あ、有様の所は、き、

きせるのやに抜く爲め、

と、と、隣の足輕の娘、そ

の娘に、一寸借用いたしき

たる物で、はい』

龍馬はきよとしなが

その』

車はいたくゆれつゝ自動車のなかまたもひきつけ来る子を妻よりとりて吾がいただきつれ

眞夜中の驛にゆくしく人集まるは日支事變派遣

軍通過見送るとなり

萬歳を唱ひ終りし我が

目にも涙ながれある

は知りをり

も驛につく支事殘益

を擴大と知る

戰死者の遺骨日に幾度

影がなげかける憂鬱を何としませう

今……

私の前をゆきつもござつ

するやがて跡方もなく消えてゆきませうとも

「玉露で……」

所詮は蜃氣樓の様に

心の迷ひなんか迷はせて

ます

近來の睡氣さま

生命線守護の勞

苦に對し断然欠

スブル赤井の林

席を許さぬ廿九日祭日

日の勇士歡迎會

野組合

而して第の大晦

あ、有様の所は、き、

きせるのやに抜く爲め、

と、と、隣の足輕の娘、そ

の娘に、一寸借用いたしき

たる物で、はい』

龍馬はきよとしなが

その』

車はいたくゆれつゝ自動車のなかまたもひきつけ来る子を妻よりとりて吾がいただきつれ

眞夜中の驛にゆくしく人集まるは日支事變派遣

軍通過見送るとなり

萬歳を唱ひ終りし我が

目にも涙ながれある

は知りをり

も驛につく支事殘益

を擴大と知る

戰死者の遺骨日に幾度

影がなげかける憂鬱を何としませう

今……

私の前をゆきつもござつ

するやがて跡方もなく消えてゆきませうとも

「玉露で……」

所詮は蜃氣樓の様に

心の迷ひなんか迷はせて

ます

近來の睡氣さま

生命線守護の勞

苦に對し断然欠

スブル赤井の林

席を許さぬ廿九日祭日

日の勇士歡迎會

野組合

而して第の大晦

あ、有様の所は、き、

きせるのやに抜く爲め、

十二 県社子鉄
倉神社前
歌舞劇奉告の上

恩給一萬圓

内外の陣容を整へ

第十九回 決算報告

感激裡の盛況を豫想せる甘ル!

第三期分支給したる
六厘弱(二千六百八十六)
六十六錢後期繰越金
現金預ケ金勘定五九九四
符數三(梅ヶ町)同小林
隆雄(鎌田町)同志役職
(西町目)遼陽少一六柏
原英介(三町目)春田駐
劄歩二九板橋芋夫(田町)
同菅野浅雄(長橋町)同
大島熊一(田町)同佐藤
亥之吉(研町)北浦第十
四師園通信隊無線小隊金
成章(久保町)浦瀬派遣
鐵道隊船山次(大工町)

満州

第二聯隊二中隊
井上義市(柳町)同歩二
九長谷田芳雄(南町)同
本村右三(正月町)同深
谷四三郎(城之内)同猪

滿州

第二聯隊二中隊
井上義市(柳町)同歩二
九長谷田芳雄(南町)同
本村右三(正月町)同深
谷四三郎(城之内)同猪

満州

第二聯隊二中隊
井上義市(柳町)同歩二
九長谷田芳雄(南町)同
本村右三(正月町)同深
谷四三郎(城之内)同猪

一千圓株主配當金(六分
午前十時から某所に於て催
きを保し難きものあるので
してゐるためこれを救濟維
持するため學校當事者は自
ら地方小學校並びにそれら
のものあるので文教の

組合學校募集

校外監督協議 平町公私

定員は三十名の豫定で之が

立學校外監督取締會議は三

申込みは二月十日迄に願書

提出する事になつてゐる

所定の如き不心得者も

には往々受検用に供する虚

偽の帳簿を作成し税金の通

理を急いでゐるが當業者中

には往々受検用に供する虚

偽の帳簿を作成し税金の通

査を開始すると同時に三名は

經營上にも甚大な影響を

示してゐる

の臨い雇入れられ夫々調査整

及ばし經營推進難に直面

て提出する事になつてゐる

所定の如き不心得者も

には往々受検用に供する虚

偽の帳簿を作成し税金の通

理を急いでゐるが當業者中

には往々受検用に供